

物質・デバイス領域共同研究拠点 第2回活動報告会

平成24年4月23日に「第2回物質・デバイス領域共同研究拠点活動報告会」が東京工業大学・蔵前会館において開催された。資源研辰巳所長の開会に続いて、東工大研究担当理事の鈴木啓介副学長、次いで来賓の文部科学省研究振興局学術機関課の澤川和宏課長の挨拶があった。午前のプログラムとして拠点本部長の八木康史産研所長から拠点活動報告があり、拠点の目的と昨年度を中心に活動の概要が紹介された。次いで、東大物性研家泰弘所長より、「日本学術会議および国立大学共同利用・共同研究拠点協議会の最近の動きについて」と題して、日本の学術行政から共同研究拠点に関する最近の話題についての特別講演が行われた。昼食後は、23年度の共同研究成果についてのポスター発表を行った後、領域の報告が行われた。5つの領域それぞれについて、領域概要と一般共同研究を領域の代表者が、特定共同研究を共同研究者が報告した。その後、東工大応用セラミックス研究所の細野秀雄教授から、「透明アモルファス酸化半導体 (TAOS) : 物質設計からディスプレイへの応用までの軌跡」と題する特別講演が行われ、ユビキタス元素を用いる透明アモルファス酸化物の発見の経緯から国際的な競争と現状が紹介された。さらに、共同研究のポスター発表を行ったのち、意見交換会で熱心な討論が行われた。

今回の活動報告会には、拠点研究者、共同研究者、来賓、一般参加者をあわせて248名の参加をみた。本拠点の年次を追っての活動の質、量あわせた充実が明確に示される一方、ネットワーク型拠点についての議論が重要な焦点となった。また、大阪大学産研・技術室と東京工業大学との共同作業によるインターネットライブが実施され、全国の研究者への報告会の様子がリアルタイムで配信された。

